

円高に関連した業況感に関する主なコメント（24年2月調査）

《製造業》

- 円高に伴う大手電子部品メーカーによる工場再編の影響は見られないが、影響がすぐには現れない孫請けなどの零細事業者への今後の影響を懸念している（秋田県）
- メーカーの下請けや孫請けが多く、従前からの値下げ要請はあるものの、円高やタイの洪水が影響しているという企業は少ない（山形県）
- 円高により自動車部品製造の利幅は減少しているが、受注は安定している（群馬県）
- 円高により取引先の慎重姿勢が強まっており、極端な小ロットや短い納期の発注が相次ぐなど、受注環境が悪化している（東京都）
- 円高や欧州経済、中東情勢不安などにより、発注の見合わせや受注価格の引下げの要求などから、売上げが減少している（石川県）
- 円高による影響は多少あるものの、業況判断はマイナス幅が縮小し景気は緩やかながら回復基調にある（香川県）
- これまで小規模零細企業は円高の影響をあまり受けていなかったが、円高が続いているため大手企業からの受注単価引下げなどにより利益率が圧迫されており、総じて厳しい状況が続いている（愛媛県）
- 円高による悪影響は聞かれないが、需要は低迷している（山口県）
- 円高の影響により、中国や韓国の企業との受注競争から造船関連は依然として厳しいほか、一部商品では安価な輸入品の増加に伴い競争が激化している（長崎県）

《小売業》

- 業況は、悪化幅が縮小傾向にあるが、売上げ・採算は依然として厳しい状況にある。小売業からは円高を歓迎する声があっても良いと思うが、円高の恩恵を受けているといった話は聞かない（滋賀県）

《卸売業》

- 食品加工用の原材料高は、円高のおかげで相殺できているが、売上げが上がらない（新潟県）
- 年々価格競争が激しくなり販売価格が低下しているが、仕入等にかかる円高メリットは聞かれず、仕入価格は逆に少しずつ上がっており収益は悪化している（広島県）

《サービス業》

- 震災と円高により海外からの観光は壊滅状態であったが、欧米を中心に少しずつ戻りつつある（長野県）
- 震災の影響は少なくなっているが、円高に伴い海外からの観光客が減少しており、総じて見ると悪い状況は変わらない（長崎県）